

※文字の大きさは Meiryu UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせた作成も可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

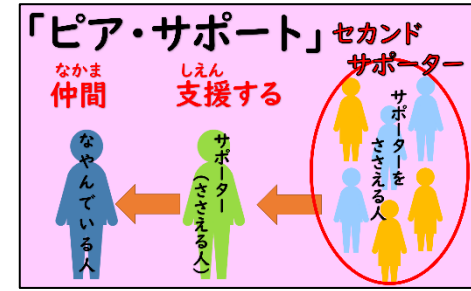
【様式 2】

No. D-87

| | |
|---|-----------------------|
| 部門名：校内研修プログラム 開発・実践部門 | エントリー名： 高崎市立久留馬小学校 |
| 活動名：児童が動く積極的生徒指導 二つの柱で児童・教職員の意識改革 | |
| 解決すべき課題：「良い子」だけだ…。 | |
| <p>・比較的落ち着いた学校生活を送っている学年・学級が多い本校であるが、活動への積極性、主体性には欠ける部分があった。自分たちの学校、生活を、自分たちの力で良いものにしていこうという意欲を高める必要性がある。また、トラブルが起きた際にも、自分たちの力では解決できず、教職員を頼ることが多い。よく言えば大人を信頼していると言えるが、問題を自分たちで解決する力や、解決しようとする意欲も伸ばす必要がある。</p> | |
| <p>目標・方針：「JRC」と「ピア・サポート」、二つの柱で取り組む、児童・教職員の意識改革</p> <p>①「JRC（青少年赤十字）」の実践目標である「気づき・考え・実行する」を学校経営方針の中に位置づけ、どんな問題にも解決へ向けて主体的に取り組む児童を育成する。</p> <p>②JRC 活動で高まった意欲を、「ピア・サポート」（資料 1）の視点を生かしたいじめ防止活動に向ける。児童が相互に支え合う活動に取り組み、仲間と共に問題を乗り越える力を育成する。また、友達を支えた経験からは自己肯定感の高まりを、友達に支えてもらった経験からは安心感や、今度は自分が、といった他者貢献の意識の高まりを得ること目指し、人格的成長を促す。</p> <p>③新しい活動を増やすだけでなく、既存の活動や普段の授業、市教育委員会から提供される資料を用いた活動も、柱である二つの活動の視点から改めて意義づけ、教職員の多忙感を増長させずに取り組む。</p> | |
| <p>活動内容：活動は、主に児童会本部発信で全校児童に投げかけ、教職員は校内研修にて実践</p> <p>①各種 JRC 活動（資料 2） ・災害支援募金・奉仕作業・義足体験授業・国際交流授業・JRC 通信の発行による家庭、地域への啓蒙</p> <p>②ピア・サポートの視点を生かした「いじめ防止活動」 ・セカンドサポータープロジェクト（資料 3）・久留馬小版いじめ SOS 発見シート作成（資料 4） ・いじめ防止活動「こんなとき、キミならどうする？」（資料 5）</p> <p>③校内研修で取り組む「道徳科」での発問の工夫 ・主発問として、「自分ならどうするか。自分だったら登場人物のように行動できたか。」を問い、道徳の学習を自分事としてとらえ、生活に生かす姿勢を育んだ。</p> | |
| <p>活動の成果：「活動の意義が明確に」、「校外外からの賞賛」→積極性、主体性の向上</p> <p>・児童の積極性、主体性が向上したことにより、児童発案の活動が多く実現された。ピア・サポートとして行った、「セカンドサポータープロジェクト」、「こんなとき、キミならどうする？」は、児童発案の活動である。</p> <p>・「こんなとき、キミならどうする？」には、全校児童 234 名の本校で、400 枚を超える投稿が集まった。</p> <p>・下級生には、多くの活動に取り組む高学年への憧れが芽生え、自分たちもやってみようという声が多く聞かれた。結果、代表委員会で発案されたあいさつ運動には、低学年児童も参加した。</p> <p>・保護者対象の学校評価アンケートでの「お子さんは、友達と仲良く勉強したり遊んだりするなど、楽しい学校生活を送っていると思いますか。」の質問に、例年数%はあった「あてはまらない」という回答が 0%になった。</p> | |
| <p>アピールポイント（アイデアや工夫）：「自分たちで気づき、考え、実行する」を伝統に</p> <p>・児童会、高学年が中心となって発案、活動→全校に発信→下級生が憧れ、「自分たちもやりたい！」という、活動や意欲が伝統として受け継がれる流れを作ることができる。</p> <p>・どの学校でも行っているような活動でも、意義づけと賞賛により、飛躍的に成果を高めることができる。</p> <p>・新しい活動を多く盛り込むのではなく、既存の活動や市教育委員会提供の活動を効果的に行うことで、労力は少なく、教職員の多忙感を増長することなく活動できる。</p> <p>・目の前の児童の変容により、教職員の積極性、主体性をも高めることができる。</p> | |

<写真、図表添付欄>

（資料 1）ピア・サポートとは
 ・ピア＝「仲間」、サポート＝「支援・援助」であることから、「仲間による支援」を意味する。同じ立場の仲間同士で、相互に支え合い、課題解決する活動。教育現場だけでなく、医療、福祉の現場でも行われている。



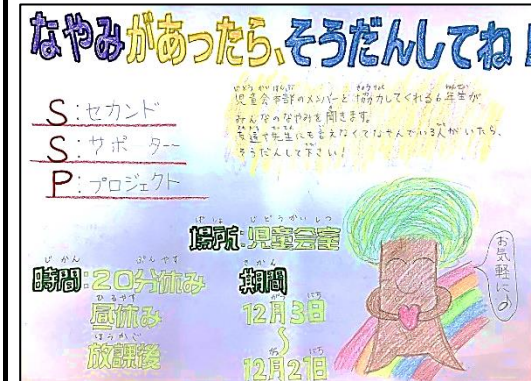
（資料 2）本校の JRC 活動を家庭、地域に発信している「久留馬 JRC 通信」



（資料 3）セカンドサポータープロジェクト

・高崎市では、毎年 8 月に、市内の全小中学校の代表が集まり、「**いじめ防止子ども会議**」が行われている。平成 30 年度の会議で提案されたのが、「ピア・サポート」であった。

そこで、本校でも何かできないかと考え、6 年生の児童から発案されたのが、この「セカンドサポータープロジェクト」。児童会本部と 6 年生の有志が、**セカンドサポーターとなって相談活動**を行った。休み時間や放課後に、児童会室で下級生からの相談を

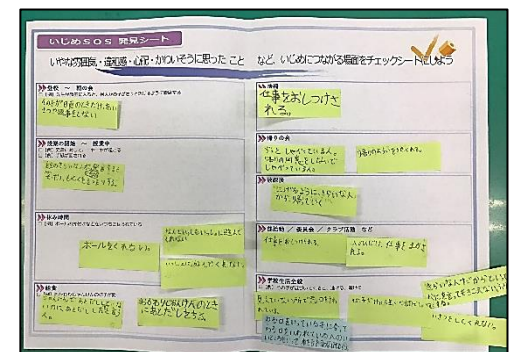


聞き、自分たちなりのアドバイスをを行うというもので、上級生に悩みを聞いてもらえるという気安さか、多くの下級生が訪れていた。

←活動を知らせる児童手書きのポスター

（資料 4）久留馬小版 いじめ SOS 発見シート

・資料 3 でも触れた、「いじめ防止子ども会議」。令和元年度の会議で活用されたのが、いじめ SOS 発見シート。学校生活の中に潜む、いじめが起こりそうな場面を出し合い、解決法を話し合うというもので、この**本校版を作ろうと**、代表委員会で話し合った。



（資料 5）いじめ防止活動「こんなとき、キミならどうする？」

・代表委員会で作られた、「久留馬小版 いじめ SOS 発見シート」で、いじめが起こりそうとされた二つの場面について、児童会本部のメンバーによるドラマ動画を制作。児童集会での視聴後、「**こんなとき、キミならどうする？**」と**全校児童に投げかけ、解決策を募集**。集まったものの中から、参考になりそうなものを、**昼の放送で全校に放送した。**

